

瓶ヶ森



壮々な眺め
帰りたくない
気持ちになる



山頂には
石工山と権現の祠 主山

カ山 1897m

山頂は愛媛県側

西黒森山へ

山頂直下は
急坂のジグザグ道

石鎚山が女人禁制だった昔
女学生として石鎚山を選択
できる地であったと伝わる。
また、男山、女山、子持権現山
(男と女と)を合わせて三位一体と呼ぶ

県境 尾根

下から見上げると
絶壁

ゆるやかな尾根道

四国山脈 縦走路

切り立った崖。
厳しい山容を見せる。

神や仏に出会うため、拝みため
山に登る。登山ではなく登拝。
瓶ヶ森には登拝がふさわしい。

四国三郎
吉野川源流駅

雄大な景色
UFOライン

吉野川源流の
森が南斜面を
ふさいでくす。

瓶ヶ森の南斜面は深く
急峻な白猪谷へと
切り落ちている。
ここに始まる一筋の水が
吉野川の源流となり、
徳島県へと流れてゆく。

土佐の歴史や地理、故実を記録
した「南路志」によると、瓶ヶ森
はかつて「亀ヶ森」と呼ばれた。
「惣体亀の甲に似たとて」といふ。
白猪谷川と申谷のせいとも。
おも池という山の峰に大地あり。
予州との境にあり、半分は土佐
半分は伊予領と本川の源」と
記されている。

本川村史によると本川郷の山々にはヒノキ、モミ、ツカ
コウマツなどの良木を産し、とりわけヒノキは王下の
木曾ヒノキに匹敵する良質材であり、17世紀
後半に土佐藩が江戸幕府に御用木を献上する
ための「御用木山目録」が作られ、その大半が
本川郷に集中していた。
本川の良材を求めて西条からシラカバを越えて盗伐が
繰り返され、土佐藩は一里ごとに山を守る
山守番所を置き監視を強めた。
西条誌にも「東之川よりシラカバを運んで
白猪谷に入り土佐のヒノキを伐り
氷見まで出した。
氷見の材木問屋は土佐ヒノキによつ
て栄えたと記されている。

広大な氷見二千石原を配して悠然と佇む
瓶ヶ森。ゆるやかに広がるササ原と彫刻的な
白骨樹にウラボシの常緑。文句なしに美しい山だ。
山頂は南北の双耳峰となっていて、北側が女山で
石工山と権現が祀られ、南側の男山には石工権現と
蔵王権現二つの祠が祀られている。
古くから石鎚山、笹ヶ峰と並び信仰の山で、
今も多くの信者が登拝している。
四国百名山、日本三百名山にも数えられる。

瓶ヶ森とウラボシ
1953年に建てられた

管理人だった政 幾島輝夫さんは
氷見二千石原の真ん中に計画
されていた林道建設に猛反
対して瓶ヶ森の自然を守った
大功労者だ。

氷見二千石原から
石鎚山の絶景

石鎚山麓にある極楽寺の修験者さん一行に
お会いする。雪原の中を静々と歩いて行く姿
には神聖さを感じさせる迫力がある。
山伏スタイルも勇ましく、凛々としている。
尻に尻り下げている藁皮について思い切り叩き
みた。先達さんのは黒い熊の毛皮を着けて
いた。後に続く人は鹿やうさぎを着けていた。

2023.9.23

ゴミひとつ落ちて
ないピカピカの
登山道

瓶ヶ森の道は数知れぬ
修験者が歩いた道

注意
深いササの中
道は不明

鎖道を男山へ
向けて登ってみる。
深いササをこいでいく。
古い金具が見つけられ、
古くからの信仰の道だ。

鎖場

男山
石工権現 蔵王権現
二つの祠が祀られている

氷見二千石原や白猪谷
石鎚山系を望む
すばらしい山岳風景

カッコいい
白骨樹

白石小屋
休業中



西之川

瓶ヶ谷

瓶ヶ壺

サンショウウオ

円形の壺状に削られた
自然の岩穴に満ちた水。
湧き水ではなく、上部のササ
原から集まった水。
冷たくて気持ちいい。

山のてっぺんで空を
見上げる。
飛行機がその上を
飛んで行く。

聖高山の自然はとてものしく
壊れやすく、回復もなかなか。
大切に、大切に守りたい。

瓶ヶ森自然休養林
2051ha、1974年制定
四国森研管理局

ウラボシ林

石置

登山口

WC

駐車場
駐車場の標高
1660m

瓶ヶ森から土小屋に
至る林道沿いには
石鎚山系で最も
美しいブナ林やシラカバ
が広がっている。

至る持権現山 至るシラカバ山麓

